



にしもろ日和

第81号

令和4年(2022年)3月

〒886-0004 小林市細野367-2 TEL 0984-23-3164 FAX 0984-22-7884 E-mail nishimoro-norin@pref.miyazaki.lg.jp

「にしもろ日和」は、
西諸県農林振興局及び西諸県地方連絡協議会
各所属の取組や地域情報を発信しています！



出水観音（えびの市）

今月号の目次

宮崎県農産園芸特産物総合表彰の授与式	… 1
小林市土地改良区合併予備契約書調印式を開催しました	… 2
永山副知事が小林市内の事業所を視察訪問	… 3
～えびの市麓地区の災害復旧工事が完了しました～	… 4
一般道でもシートベルトは全席着用！ ほか	… 5
2022年4月から 成年年齢が18歳に引き下げられます	… 6
「中山間盛り上げ隊」がえびの市で地区の草刈りをお手伝い	… 7
第21回「いきいき集落」研修交流会で地域の取組を発表	… 8
「にしもろ2分の3成人式」で交流を促進 ほか	… 9
えびの市飯野地区で「スムーズ横断歩道」の実証実験	… 10
えびの市民図書館で「読書の通帳」サービスがスタート ほか	… 11
高原町「新燃岳を考える日」に学ぶ	… 12
令和3年度 霧島ジオパーク学術研究発表会 ほか	… 13



宮崎県農産園芸特産物総合表彰の授与式

宮崎県農産園芸特産物総合表彰は、米や野菜、花き、果樹などの生產品目について優れた成績を収め、本県農業や地域の特産物の振興に大きな貢献のあった農家や産地を表彰するものです。

令和3年度の表彰において、西諸県地域(小林市・えびの市・高原町)では、右表の7名と1団体が知事賞に選ばれました。

コロナ感染拡大に伴い、例年開かれる表彰式典に代えて、2月18日には高原町で、同じく21日には小林市及びえびの市でそれぞれ表彰授与式を行い、各市町やJAの関係者等が出席する中、西諸県農林振興局長が受賞者に賞状を贈りました。

地域農業の力強い牽引役として、受賞された方々の今後のさらなる活躍が期待されます。

【西諸県地域の受賞者(敬称略)】

氏名	市町名	知事賞(部門・等級)
片ノ坂 信夫	小林市	だいこん 1等
倉山 雄一	小林市	マンゴー 2等
園田 悠輔	小林市	普通蒸し煎茶 1等
宮崎 弘一	えびの市	水稻 2等
遠目塚 春生	えびの市	水稻 2等
川上 政信	えびの市	水稻 優等
JAえびの市ピーマン部会	えびの市	ピーマン 優秀賞
松山 法明	高原町	葉たばこ 3等



【授与式の様子】



【小林市での記念撮影】



【えびの市での記念撮影】



【高原町での記念撮影】

[振興局]

小林市土地改良区合併予備契約書調印式を開催しました

令和4年2月8日(火)に西諸県農業改良普及センター研修室にて、小林市内の9土地改良区(下記参照)を「小林市土地改良区」として合併するために合併予備契約書調印式を開催しました。

近年の農家の減少、高齢化の進行等の要因による土地改良区組織として脆弱化が考えられる中、将来における不安を払拭するために「組織の運営基盤の強化・効率化」、「財産基盤の強化」を目的として新設合併することとなりました。

今回の合併予備契約書調印式は、土地改良区新設合併における法手続の一部の行為であり、令和5年4月には受益地面積475ヘクタール、組合員数1,100名を超える大規模土地改良区の設立を予定しています。

当日は新型コロナウイルス感染対策のため出席者を最小限に絞り込み、小林市の宮原市長を立会人として、9土地改良区の理事長、副理事長が合併予備契約書を取り交わして押印し、無事に終了することができました。



【合併土地改良区】

(敬称略)

改良区名	理事長名	備考
井之山土地改良区	富永 記久男	
保楊枝原土地改良区	大部 実男	
宝光院土地改良区	谷口 和巳	
長者井堰土地改良区	檜木 睦男	
堤土地改良区	川野 輝夫	
黒沢津土地改良区	温水 勝則	
市谷土地改良区	寺師 友二	
平川土地改良区	柚木 脇 充	
巢ノ浦土地改良区	川野 利男	当日は松ヶ野副理事長が出席

[振興局]

永山副知事が小林市内の事業所を視察訪問

3月11日(金)、永山寛理副知事による小林市内の事業所への現地視察が行われました。現地では、それぞれ丁寧かつ詳細な案内・説明があり、副知事ほか訪れた関係職員で情報共有することができました。

当日の午前中は、生駒高原に隣接する「小林生駒高原葡萄酒工房」(株式会社NPK)を訪問。県内有数の生産地として、質の高いぶどうの魅力を発信できればとの思いから、令和元年6月にオープンしたワイナリーで、自社農園でのぶどう栽培と、オリジナルワインの醸造・出荷を行っています。施設では、搾汁、発酵、瓶詰めなどの工程を窓越しに見学することができるほか、ショップやカフェテラスのコーナーもあり、休日には多くの訪問客で賑わいます。驚きを意味する地元の方言を語源としたワイン銘柄「ん・ダモンタン」はほぼ完売にもなるなど人気も出てきており、注目されています。



続いて午後は、すきむらんど(旧須木村)近くの「すき酒造株式会社」を訪問。明治23年創業の老舗で、現在は杜氏の内嶋光雄さんが仕込みを手がけています。内嶋さんは、明治から昭和にかけて焼酎造りの技術発展と品質向上に大きく貢献した鹿児島県南部の一大杜氏集団「黒瀬杜氏」の伝統技を受け継いだ数少ない職人です。見学も可能な総木造の蔵では、100年以上も使い込まれた和甕が並び、内嶋さんのこだわりや思いが詰まった焼酎が静かに寝かせてあります。麦、芋、粟などの個性的な銘柄の数々は首都圏からも引き合いがあり、根強い支持を集めています。



[振興局]

～えびの市麓地区の災害復旧工事が完了しました～

治山工事の災害復旧事業は、自然災害等により被災した治山施設の復旧や改良、異常な天然現象により荒廃した山地等の復旧整備を実施しています。

今回、令和3年度に完成したえびの市大字小田麓(ふもと)地区の①林地荒廃防止施設災害復旧事業(令和2年5月被災)と②災害関連緊急治山事業(令和2年7月被災)が完了したので、ご紹介したいと思います。

【①林地荒廃防止施設災害復旧事業】



(完成後)



(着工前 被災後)

【②災害関連緊急治山事業】



(完成後)



(着工前 被災後)



※隣接する復旧箇所(治山工事)



①の復旧箇所

②の復旧箇所

[振興局]

一般道でも

シートベルトは全席着用！



全国のシートベルト着用率の調査結果が発表され、宮崎県の一般道での後部座席シートベルト着用率は、全国平均を大きく下回る**35.5%**でした。

		宮崎県	全国平均
一般道路	運転席	99.6%	99.1%
	助手席	98.0%	96.7%
	後部座席	35.5%	42.9%
高速道路等	運転席	98.7%	99.6%
	助手席	99.1%	98.9%
	後部座席	81.6%	75.5%

警察庁及びJAFによる調査結果

後部座席シートベルトを着用せずに交通事故に遭うと

☆車内で全身を強打

☆車外に放り出される

☆前席の人にぶつかる

「後部座席シートベルト着用義務は高速道路だけ」は**勘違い！！**
一般道でも全席着用しなければ（させなければ）いけません。

（道路交通法第71条の3第1項、第2項）

県内では、過去3年間にシートベルト非着用の後部座席同乗者が3人亡くなっています。

還付金名目のうそ電話詐欺が急増中！！

令和4年に入り、県内の**高齢者世帯**を中心に、還付金詐欺に関する不審電話が**急増**しています。

【このような電話がかかってきたら**要注意**！】

自治体や金融機関等の職員を名乗る人物（男女問わず）から

- ・ 過払い金（介護保険料、医療費、年金等）があります
- ・ 書類は届いていませんか
- ・ **ATM**で返還の手続きができます
- ・ 振込先の金融機関を教えてください
- ・ ATMに着いたら電話してください（電話します）



[小林警察署]

2022年4月から

成年年齢が**18歳**に引き下げられます

新成人の皆さんへ

軽い気持ちで契約しない

うまい話に飛びつかない

ネットの情報に流されない


契約をせかす者は相手にしない

借金をしてまで契約しない

きっぱり断ることも勇気!

相談は、「188」



 国民生活センター 公式LINEアカウント

LINE ID: @line_ncac

〔友だち登録〕で生活に役立つ情報をお届け!
チャットボットでよくあるトラブル&解決策を調べてみよう♪



独立行政法人
国民生活センター

こんなのアリ!?!と思ったら・・
あきらめなくて、まず相談!



宮崎県消費生活センター 都城支所

☎0986-24-0999

対応時間:月~金 午前9時~午後5時

※受付は午後4時30分まで

来所の際は事前に電話でご相談ください

宮崎県消費生活センター

検索



「中山間盛り上げ隊」がえびの市で地区の草刈りをお手伝い

共同作業や地域行事の担い手不足に悩む中山間地域の要請に応え、その活動に加わって地域を支援する「中山間盛り上げ隊」が各地で活躍しています。

1月16日(日)、えびの市下大河平地区において、下大河平自治会によるめがね橋傾斜部の除草が行われました。

めがね橋は、正式には「月の木川橋」と称し、昭和3年に木材運搬用のトロッコを通すために架けられた石造りの3連アーチ橋(橋長約60



m)で、国の登録有形文化財となっています。今回の除草は、地区のシンボルである橋の周辺の美化活動で、派遣依頼を受けた中山間盛り上げ隊も事務局を含めて計7名が参加して、作業のお手伝いをしました。



【 隊旗を掲げて記念撮影 】

当日は天気もよく、作業に適した日となりました。まずは近くのコンビニエンスストアを目印に集合・合流し、検温と消毒を実施。全員が集まると、現場のめがね橋入り口に移動して全体ミーティングを行いました。

中山間盛り上げ隊の隊旗を設置した後、午前9時から作業スタート。傾斜地でもあり、足元が滑らないように声を掛け合いながら慎重に草を刈りつつ、大型の植物は根に近い部分からのこぎりで丁寧に切断した上で、所定の場所に集めていきました。

途中、自治会長さんの差し入れによる休憩を挟み、作業は正午ごろに終了。無事解散となりました。



【 作業の様子 】

中山間盛り上げ隊の派遣については、県から委託を受けている運営事務局が架け橋役となって調整しています。詳しくは、下記にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

- ・ 運営事務局(児湯・西部地区) (株)アイロード 電話:0985-23-3443
- ・ 中山間盛り上げ隊ホームページ <https://www.chusankan.net/moriage/>

[西諸県地連協]

第21回「いきいき集落」研修交流会で地域の取組を発表

2月19日に、第21回「いきいき集落」研修交流会（県中山間・地域政策課事業）が開催されました。

県内の中山間地域に位置する集落やコミュニティ同士の情報交換、交流によるネットワークづくりを行い、地域づくり活動を促進することを目的としたプログラムで、県庁防災庁舎をメイン会場に、県内2か所の会場をオンラインで結び、ライブ配信による事例発表やトークセッションなどが行われました。

今回は、住民主体で活性化に取り組む事例として、3地区のグループがそれぞれの特徴ある活動事例を発表する内容で開かれ、西諸県地域からは小林市須木地区の「すきむらづくり協議会」が、地域資源で稼ぐ自立促進に向けた取組と経過を発表しました。



【 発表資料より 】

地域資源の付加価値化や6次産業化を見据えた地域ぐるみの活動が詳しく説明されました。

高齢化率が50%を超える須木地区では、地区の魅力を活かして持続可能な地域を育もうと、30～50代の住民が中心となってすきむらづくり協議会を発足し、農産加工グループと共同で商品開発に取り組んでいます。令和2年度には、開発した商品のお歳暮ギフト販売事業を実施。同協議会が販売代行とPRを行い、全国から関心を集めて大きな販売実績を上げました。

現在では、地元酒造会社と提携して須木産の唐芋を使った焼酎を仕込み、今夏の販売を計画しているなど、

このほかの発表についても、アイデアあふれる活動やまちづくりのデザイン、そこからの広がりなどが紹介され、トークセッションでは様々な意見が交わされるとともに、たくさんの質問が出されました。



【 すきむらづくり協議会の発表の様子 】



【 発表者一同で記念撮影 】

[西諸県地連協]

「にしろ2分の3成人式」で交流を促進

1月30日、「にしろ2分の3成人式」がオンラインで開催されました。

30歳前後の西諸県地域出身者・在住者をターゲットとした交流企画で、地域内を拠点とした毎日の仕事や生活、楽しみなどを紹介しながら地域への思いを語り、ふるさと「にしろ」で暮らす魅力を参加者で共有しようと、小林市・えびの市・高原町が共同で実施したものです。

式では、移住経験があり、現在は専門分野を活かして地域内で活躍している同世代の3人がパネリストとなって、「にしろ」に関わる様々なテーマのトークを繰り広げました。参加者の関心も高く、交流を深めて地域志向を盛り上げるイベントとなりました。



〔西諸県地連協(協力:小林市)〕

子どもたちがアプリでアニメ制作を体験

このほど、小林市の小林まちづくり株式会社(観光庁観光地域づくり法人)の主催による「こぼやしアニメスクール」が開催され、小学生から高校生までの16組(32人)が熱心にアニメ制作を体験しました。

作業には、スマートフォンやタブレットで起動する手書きアニメのツールアプリが使われ、地域のアニメーターを育てる「みやざきアニメ塾」の運営主体でもある株式会社RICE FIELDが子どもたちをサポートしました。



この両社と小林市の3者は、昨年夏に地域活性化包括連携協定を締結しています。アニメ制作での人材育成や雇用の創出、地元の観光振興などに連携して取り組むもので、今後の展開が注目されます。



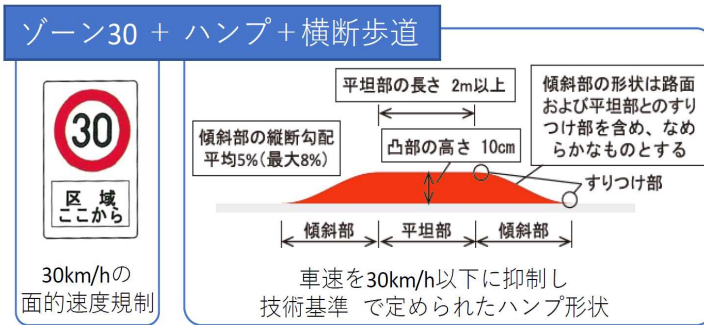
〔西諸県地連協(協力:小林市)〕

えびの市飯野地区で「スムーズ横断歩道」の実証実験

歩行者にとって安全な道路環境を整備し、事故ゼロとなることを目指して、えびの市飯野地区で「スムーズ横断歩道」を試行的に設置した実証実験が、1月から2月にかけて実施されました。

この取組の背景として、交通弱者を巻き込んだ悲惨な事故や、信号機のない横断歩道での歩行者に対する車の不停止が全国的にクローズアップされるなど、交通行動への意識の高まりがあります。

近年、国土交通省と警察庁が中心となり、ゾーン30（時速30kmの速度規制道路）と、スムーズ横断歩道と呼ばれる道路標示を組み合わせた、歩行者を守るための交通安全対策の普及が展開されており、飯野地区での試みはその一環となるものです。



交通工学会資料より

スムーズ横断歩道とは、路面に高さ10cmの滑らかなハンプ(凸部)をつけた横断歩道をいいます。ハンプは、道路の進行方向に2m以上の平坦部を確保した形状につくられていて、その部分が横断歩道になっています。通過する車をハンプで押し上げる構造で、その際にドライバーが衝撃を感じるため、注意喚起と速度抑制に有効な方法とされています。

今回の実証実験は、周辺に閑静な住宅地が広がり、子どもたちの通学路であるとともに住民にとっての身近な生活道路にもなっている、飯野小学校・飯野保育園付近のゾーン30区域内の地点を対象として行われ、えびの市、宮崎県、宮崎県警、国土交通省の連携協力のもとで、効果の測定や認知度の向上、啓発の取組が約1か月間にわたって進められました。

地域における今後の交通安全対策の進展につながることを期待されます。



[西諸県地連協]

えびの市民図書館で「読書の通帳」サービスがスタート

えびの市民図書館では、利用者に向けた「読書の通帳」の運用・配布サービスが昨年12月からスタートしています。



読書の通帳は、借りた本の題名などを預金通帳のように記帳するもので、館内に設置されている機械を通すと自動で印字される仕組みになっています。



どのような本をいつ借りて読んだかを見返すことができ、自分の読書履歴として残したり、次に読みたい本の選択に活用するなど、本に対する興味・関心の喚起や読書意欲の向上、さらには図書館の利用促進のためのツールとして関心を呼んでいます。

このたびのサービス開始は西諸県地域では初めてで、開始初日にはPRを兼ねたセレモニーが開かれました。「通帳がいっぱいになるように、たくさん本を借りて読みたい」と意気込む児童もいるなど、今後の普及と利用拡大が注目されます。

なお、読書の通帳は、市民でなくても希望すれば有料で発行されるということです。

[西諸県地連協]



えびの市歴史民俗資料館

企画展「島津義弘公展」が開催されました

戦国時代から安土桃山時代にかけての薩摩国における猛将として名を轟かせ、家康や秀吉からもその傑出ぶりを恐れられたという武将に島津義弘がいます。

飯野城(現えびの市)に在城していた義弘が、大軍であったとされる日向国の伊東勢を少数の兵力で打ち破り、南九州の制圧に大きな前進を果たした「木崎原の戦い」(1572年)から今年で450年。幾多もの合戦で武功を挙げた「鬼島津」の生涯と足跡をたどる企画展「島津義弘公展」が、2月にえびの市歴史民俗資料館に



で開催されました。

展示では、義弘の生涯年表や合戦図、市内各地の関連史跡を解説した詳しい資料のほか、貴重な古文書なども紹介され、大変に見応えのある内容でした。

[西諸県地連協]



高原町「新燃岳を考える日」に学ぶ

平成23年1月26日、霧島連峰の新燃岳で大規模なマグマ噴火が発生しました。

噴石や降灰によって大きな被害を受け、長期間にわたって住民生活に支障をきたすこととなった高原町では、その経験を風化させることなく火山に対する防災意識を高く持ち続けようと、1月26日を「新燃岳を考える日」と定め、防災に関する取組を実施しています。

1月24日から26日にかけて、高原町内全ての小中学校で、「新燃岳を考える日」に伴う防災学習や噴火を想定した避難訓練が行われました。

このうち防災学習では、噴火当時の様子を知り、今後いつ起こるか分からない災害に備えるための授業が実施され、新燃岳噴火から11年目を迎えてほとんどの子どもたちが被害を直接経験していない中で、貴重な学習機会となりました。

また、噴火を想定した避難訓練では、保護者や地域の理解と協力のもと、子どもたちが通う学校までそれぞれの保護者が車で迎えに来る「引き渡し訓練」が行われました。

子どもたちには、今回の取組を通して、自然災害にきちんと向き合える意識と行動力を身に付けるとともに、地域の災害の記憶をしっかりと将来に受け継いでいってほしいと思います。



【高原小学校での防災学習の様子】



〔西諸県地連協(協力:高原町)〕

令和3年度 霧島ジオパーク学術研究発表会

2月26日、「令和3年度霧島ジオパーク学術研究発表会」がオンラインで開催されました。

主催の霧島ジオパーク推進連絡協議会では、学術的資料の蓄積と研究活動の活性化を図るため、霧島ジオパークの地域資源についての調査研究を支援・補助しています。今回の発表会は、令和3年度の支援・補助対象に採択された調査研究の成果に関するもので、霧島をフィールドとする研究の一端に触れる貴重な機会となりました。

令和3年度
**霧島ジオパーク
学術研究発表会**

霧島ジオパークの地域資源を対象とした調査・研究を支援することにより、霧島ジオパークに関する学術的知識に基づく資料の蓄積及び研究活動の活性化を図るため、学術研究支援補助を実施しています。今年度採択された研究成果を発表し、霧島をフィールドとする研究の一端に触れて頂きます。

日 時：令和4年2月26日(土) 10:00~11:00
開催方式：オンライン (Zoom)

■学術研究補助採択成果発表

発 表 者：鎮西学院大学 現代社会学部社会福祉学科 教授 山口弘幸 氏
研究名称：霧島ジオパークにおけるユニバーサルデザイン化の推進に関する調査研究

参加
無料

テーマ「霧島ジオパークにおけるユニバーサルデザイン化の推進に関する調査研究」

ユニバーサルツーリズム(誰もが安心して旅行を楽しめる環境づくり)や社会福祉学の研究者として活躍されている鎮西学院大学教授の山口弘幸氏が、約1時間にわたって研究成果を発表されました。

山口氏は、霧島ジオパークのモニターツアーを組み、拠点施設の巡検や周辺環境のバリアフリー対応状況などの現地調査を実施。ソフト・ハード両面から課題を分析され、ユニバーサルデザインの視点に立った情報発信のための基礎的資料の制作や、バリアフリーの対応向上についての検討を重ねてこられました。

発表の中で、霧島ジオパークは、希少な地質遺産をはじめ観光や食などの豊かな地域資源を有し、高齢者や体の不自由な方、妊婦、幼児など様々な人々が楽しめる魅力を備えたジオパークであるとして、高く評価されるとともに、多目的トイレや介助設備、救護施設といった対応の充実による今後の広がりなど、関係者が一丸となった受入体制の強化への期待を述べられました。



ユニバーサルデザイン化の諸課題②




配慮に伴う一般利用者の増加により、管理保全が難しくなる場合がある。訪問者にもマナーが必要。

[西諸県地連協]



宮崎の地域資源ブランドパネル展で 霧島ジオパークを紹介

昨年12月から1月30日にかけての期間、県総合博物館において“宮崎の宝”でもある県内7つの地域資源ブランドを一堂に集めたパネル展が開催され、霧島ジオパークもそのひとつとして紹介されました。

[西諸県地連協]